

令和元年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡中央高等学校

—— 立志・気づき・共生 ——

1 教育目標 (建学の精神)

- ① 自ら思考し、創造し、自学自律の態度を身につけた人間を育成する
- ② 広い視野と洞察力を持ち、豊かな人間性と果敢な実行力を備えた人間を育成する
- ③ 自他を敬愛する精神を培い、地域や社会に奉仕し、貢献できる人間を育成する

2 本年度の重点目標

生徒が良質なモチベーションを持ち、成果が上がるように支援し、褒めて育てる、コミュニケーション豊かな教師集団と学校が大好きな生徒のいる学校をつくる。

- ① 新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造する
- ② 生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境をつくる
- ③ 一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる
- ④ 日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる
- ⑤ 周りからみえる学校、地域に信頼される学校づくりに努める
- ⑥ 学校運営組織を活かし、ゆとりある教育環境をつくる
- ⑦ 新大学入試制度や学習指導要領の改訂を見据え、教育課程や学習指導法の研修に努める

評 価 基 準	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
		今年度の成果と課題	来年度への改善点	意見・要望	
新しい時代にふさわしい鶴岡中央高校を創造する	① 本校教育活動の強みを発信し、弱点克服に努める	平成30年6月に策定された本校の教育計画に基づき、年度の重点目標、各課・年次等の経営計画が作られ、実行されている。12月に各学科ごとにテーマを設け、職員研修会を実施。取り組むべき事項が明確化された。	B	将来に向けた本校の教育活動とマネジメントサイクルを進めていくとともに、職員研修会で引き出された具体的事項(朝学習・朝読書の実施等)について検討・準備し、取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科・総合学科それぞれの特色を創出すべく、経営計画は着実に実行に移されている。 ・根づいた生き方をし、ふるさとを大切にすること、グローバルな視点で自分の立つ位置を考えられる人材の育成、外部との連携を強めてほしい。 ・普通科の活性化が課題だと感じる。特色ある学びをお願いしたい。生徒のニーズに応じた様々なコースを設定、カリキュラムの工夫も必要。総合学科も含めた「地域で活躍する人材の育成」が中央高校に求められている。 ・AIやIOTの進展など新たな技術活用に対応できる人材育成を進めてほしい。 ・学習発表等を通じ、目標への取り組み、成果が出ていると感じる。 ・「新しい時代」をもう少し具体的にすると教職員も生徒も目標を立てやすくなると考えます。
	② 地域の中学生や保護者、鶴岡市や関係団体、企業等から期待される学校について研究する。		B		
生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境をつくる	① 普通科においては、将来の学びも視野に入れ、切磋琢磨し確かな学力をもとに進路実現できるよう、一層学力を向上させる。	各教科において、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開を工夫している。生徒満足度調査の結果、学習分野の評価が相対的に低い。家庭学習時間が減少傾向にあり、課題となっている。普通科、総合学科(各系列)ともに、地域とのつながり、地域の教育力を活用した特色ある取り組みを実施している。	C	授業改善に関わる教科としての年間のテーマを設定し、その効果を検証してもらう等の対策を行っていく。今後も教務課を中心として、各年次・各教科と課題意識の共有化を図り、学習習慣の定着と学力向上に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の満足度調査の結果、学習分野の評価が相対的に低いのが気になった。また、家庭学習時間が減少傾向にある。理由の分析が必要。 ・1・2年次の段階から学習習慣の定着に取り組んでいただきたい。 ・自己決定できる寛容さを許し、自己責任の能力を引き出す。オール5の優等生だけが求められているわけではない。 ・スパイバー株式会社や慶應大学先端生命科学研究所の隣にある立地条件を生かし、連携を深め、研究助手・特別研究生など意欲のある生徒をどんどん育ててもらいたい。 ・生徒の個性を伸ばす教育は一層求められていくと思われることから、生徒の良い点に着目し、長所を最大限伸ばしていただくことを期待する。 ・各先生方が一生懸命取り組んでおり、結果、良い教育環境であると思う。
	② 総合学科においては、地域との触れあいを大切にし、課題研究を核として、社会で活躍するための学力と高いスキルを身につけさせる。		B		
	③ 研究機関との連携や、地域の自然・伝統文化・歴史遺産等を活用することにより、学習機会を拡大させ、本校教育を充実・発展させる。		B		
	④ 普通科・総合学科それぞれの、特色ある学びを進展させる教育課程の編成と実施に努める。		B		
一人ひとりの着実なキャリア形成を進め、高い志を育てる	① 普通科の「キャリア探究」、総合学科の「産業社会と人間」「総合学習」「課題研究」を基軸とした「やる気」の誘発とキャリア形成を進め、進路希望の実現を図る。	各年次のキャリア教育の取組みは計画どおり実施することができた。進路指導に対する生徒・保護者の評価は高い。1年次は企業訪問・大学見学・職業体験学習、2年次は地元企業との懇談会やインターンシップ等に取り組む、これからの進路への意欲につなげるよい機会となった。	A	各年次のキャリア教育を「主体的対話的で深い学び」につながるよう改善を加えていく。普通科・総合学科ともに地域との連携を意識した探究的な学習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の取組が計画通りに実施できたことは高く評価できる。ここきて、これまでのキャリア教育の成果が出てきている。地元企業との懇談会やインターンシップなどの取組はこれからも継続して行ってほしい。 ・何をやりたい自分なのかを体験を通して自覚させ、やりたい自分になるための志を育む。やりたいこと、やりたい事がはつきりするど強くなる。 ・「キャリア探究」や「課題研究」が軌道に乗りつつある。これからの時代に求められる力を育成するために、インターンシップを強化し、企業訪問、見学、体験等、これまで以上に積極的に取り入れてほしい。 ・地域の担い手となる若者の域外流出が懸念される中、将来的に地域に定着する人材育成に期待する。 ・体験させ、興味を抱くことで積極性にもつながる。引き続きキャリア形成に向けて尽力願います。 ・様々な選択肢があり、それぞれ導いていただいている。 ・進学と就職希望と両方に対して適切な指導が必要。進学を重視している傾向を感じるので、就職指導もしっかり出来ることが望ましい。
	② 家庭学習の習慣化など、有効な時間の使い方を身につけさせ、将来を見据えた規律ある生活を確立させる。		C		
	③ 複数教員による相談活動等のサポート体制を確立し、学びを広め深めるための情報活用力を育てる。		B		
日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力を育てる	① 相手の立場や周りの状況を的確に判断する力を養い、正しいネット社会のあり方を理解させる。	生徒は落ち着いた学校生活を送っている。課題を抱える生徒に対しては、担任を中心に、年次や各分掌、MH委員会等が連携し、組織的に対応する体制が整っている。朝と帰りの生徒の挨拶は良好である。今後は、日中の挨拶を積極的に行う生徒を増やしていくことが課題である。学校祭等の諸行事への満足度は高く、3年次生のリーダーシップが発揮された。部活動では複数の部が県大会等で入賞し、東北大会、インターハイ、全国高総文祭に出場権を獲得し、活躍した。県の方針に則り、9月に本校に文化部活動方針を策定した。	B	生徒会を始めとして、学校全体であいさつの励行を進める。交通事故の防止、貴重品管理、スマホ、SNS利用について、日常的に注意を喚起していく。ボランティア活動について、これまで以上に情報を提供し、活動を広げるよう意識的に勧めていく。本校運動部・文化部活動方針のもと、生徒にとって望ましい活動環境を構築するとともに、教員の働き方改革を推進していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が落ち着いた学校生活を送っていることは何よりである。課題を抱える生徒に対してもきめ細やかな対応がなされており、今後とも横の連携を図った体制を維持することが望まれる。 ・自分を大切に、自分を愛することで、他の願いや痛みを理解し、その気づきを伝える力を育てる。大きな声ではっきり話す力を鍛えてほしい。 ・生徒会活動の活性化を図っていく。SNSのルール等を生徒会やPTAも含めて協議したり、生徒会が中心になってボランティア活動を行ったりすることも良いと思う。 ・SNS等による誹謗中傷が大きな問題となっている。高校生は非常に多感な時期でもあり、自他ともに尊重する教育の充実が喫緊の課題である。実のある指導をお願いしたい。 ・日々の指導を通じて、自他を尊重する態度と他者に伝える力は育てていただいている。生徒の方からあいさつがあると、こちらとしても気持ちが良い。 ・いじめ防止にもつながることなので、自己肯定感の醸成と他者への理解はもっと重点的に取り組んでも良い。
	② 日々の挨拶や対面したコミュニケーションを大切にするとともに、プレゼンテーションを意識した授業等を実践し、他者に伝える力を身につけさせる。		B		
	③ 生徒の悩み・変化を見逃さない観察・声掛けと積極的対話活動を実施する。		B		
	④ 生徒会・各種委員会・部活動・ボランティア等の課外活動において、生徒の創意や自主性を育みながら、人格の錬磨に努めさせる。		B		
	⑤ 外部機関と連携して各種相談活動を充実させる。MH委員会の機能を強化し、生徒・保護者へのきめ細かなサポートを実施する。		B		
周りからみえる学校、地域に信頼される学校づくりに努める	① ホームページ・掲示板・各種たより等による保護者や地域への広報活動を更に充実させるとともに、地域との交流を活発にする。	学校ホームページの更新はタイムリーに行うことができた。また、本校生について掲載された新聞記事も即時的に掲示した。PTAや年次等のたよりも定期的に発行している。PTA理事会・専門部会への参加者は昨年度よりも増加した。年次を中心にマ・メール(メールによる学校連絡網)し、家庭への情報提供を行った。授業や部活動等を通しての活発な地域交流が行われた。	B	引き続き学校ホームページや掲示板を活用し、時宜を得た適切な情報発信に努めるとともに、マ・メール(メールによる学校連絡網)を活用して家庭への情報提供を行う。中学3年生を対象とした学校説明会の充実にも努めるとともに、地元小学校への働きかけを進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのタイムリーな更新はできそうであるが、なかなかできるものではないが、これからも即時性をもった情報提供を行っていただきたい。メールの活用も有効であると思う。 ・地域の様々な場面で、学ぶ力を発揮し、「地域に開かれた学校」の在り方を広げる。論より証拠の現実を見つめる眼もほしい。 ・今までのように、ホームページや学校便りによって、情報発信、情報提供を続けてほしい。 ・地域と共生する高校として、良い雰囲気の中にあると思う。 ・鶴岡中央高校は地域との関わりで熱心な高校として認知されている。
	② 学校公開と情報発信、地域の期待に応える学校づくりに努める。		B		
学校運営組織を活かし、ゆとりある教育環境をつくる	① 教職員間・分掌間の相互理解と連携に努め、組織力の強化と業務の効率化をめざす。	教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいた教育活動が行われている一方で、各課・年次間の連携が不十分との指摘もある。グループウェアの活用が進み、業務の効率化につながっている。	B	組織連携の弱い部分を検証し、相談しやすい職場環境づくりに努めるとともに、教員数減に対応した学校運営体制を検討していく。引き続き情報管理を徹底する。校務運営システムへの対応・準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の相互理解が従前よりもなされていることは良い傾向である。円滑なコミュニケーションなくして、円滑な学校運営はありえない。また、グループウェアのより一層の活用が期待される。 ・生徒たちと向き合える時間を多くし、信頼関係を揺ぎないものとする。見ていてくれる人のあることを実感すると勇気が出る。 ・月別の超過勤務80時間の人数が年々少なくなっていて、大変良いと思った。先生方の意識改革も進んでいる。資料をみると人が足りないことへの不満や部活動指導に負担感を感じている先生が多い。一つの学校だけでは解決できない問題である。 ・働き方改革が叫ばれる中、学校現場においてグループウェアのシステム活用など、さまざまな工夫がされている。加えて、職場のコミュニケーションがスムーズに取れるような雰囲気づくりなど、ソフトの面の工夫も重要と思う。 ・昨年度と比べ、教職員相互の連携に改善が見られる。更なる連携を図っていただきたい。
	② 情報ネットワークの活用と情報管理の徹底を図る。		B		
新大学入試制度や学習指導要領の改訂を見据え、教育課程や学習指導法の研修に努める	① 推薦・AO入試対策の見直しをはかるとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブラーニング・探究的学習についての研修と実践に努める。	高大接続(大学入試)改革についての教科研修会に担当職員が参加し、全体での研修会を実施した。新学習指導要領改訂関係では、職員研修会を実施し、周知・徹底を図った。	B	職員研修会で議論された内容も踏まえながら、新学習指導要領に合わせた本校の教育課程の編成を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続(大学入試)改革や新学習指導要領関係の職員研修は、今後の学校運営を考える上でも大事なことなので、今後も継続して実施することが望まれる。 ・内外での学びを充実し、相互に交流することで、研修成果を各人の内で確かなものにする。 ・日々の授業改善から始めることが大切である。教師の説明を短くして、生徒が自ら考えて取り組んだり、複数で相談して解決したりするような時間を増やすことが大切と考える。 ・変化の激しい時代なので、先を見据えた取り組みをし、期待に応える高校であってほしい。